

学校支援の充実

子ども達が安全に安心して通える学校を目指して

東海市立緑陽小学校 P T A

1 はじめに

(1) 緑陽小学校の概要

① 緑陽小学校の位置

緑陽小学校は、東海市の北部に位置し、校区内に西知多産業道路や、県道59号線があり、非常に交通量の多い地域である。また、天白川が校区の北側に位置し、南海トラフ地震にともなう津波発生時には、津波浸水地域に指定されており避難訓練にも力を入れている。

② 地域の特徴

緑陽地区は、南柴田、北犬山、一番畑、上名和第一、長生という5つの町内会とリビオ上名和自治会から構成されており、緑陽コミュニティセンターを活動拠点として地域活動が非常に盛んな地域である。

特に、名和地域合同夏まつり&盆踊り大会や新春緑陽ひろばなど、子ども達が楽しめる活動を地域全体で実施するなど、地域をあげて子ども達を育てようとする機運が高い。

③ 地域からの学校支援

地域からの学校支援として、さまざまな団体から支援をいただいている。特に、上名和シニア連合会は下校時のパトロールや見守り活動、あいさつ運動などを実施している。また、地域の保護者有志による団体「日曜日のパパ」は、校内の環境整備だけでなく、スポーツ大会の企画運営、コミュニティ行事で子ども達を楽しませる活動の企画運営などのさまざまな面で支援をいただいている。

(2) 研究テーマ設定の理由

子ども達が安全に安心して通うことができる学校づくりは、保護者の強い願いである。保護者は子ども達の日々の姿を目にしており、地域の危険箇所の把握や、登下校に関わる通学路の安全点検、家庭での心のケアについて、大きな役割を担っている。緑陽小学校では、令和6年度児童が関わる



【地震避難訓練の様子】

交通事故が複数発生している。令和7年度に入り、自転車と児童の接触、下校後に原付と自転車の接触事故が報告されている。また、校区内で交通死亡事故も発生しており、安全に安心して通うことができる学校づくりにおいて校区内での交通事故危険箇所の把握は急務であると考え、活動の重点においた。

また、校内での安全についても、危険箇所の早期発見・改善をねらいに学校の環境整備に積極的に関わったり、地震などの災害や、不審者の校内侵入の防止、事後の子ども達の心のケアを考えた取組を検討したりといった面で安全・安心な学校づくりに協力していく。



【コミュニティ夏まつり】

2 研究への取組

安全・安心な学校づくりを実現するためには、保護者、子ども達、学校、地域が協力して取り組む必要がある。PTAは保護者としてだけでなく、地域からも声をあげることで安全な環境づくりに貢献できると考えた。またいまでもないことだが、家庭での子ども達への指導や声かけ、心のケアを行うことは、保護者の主となる役割であることを念頭におき、保護者・学校・地域で協力して子ども達を育てていきたいと考えている。

(1) 保護者へのはたらきかけ

これまで地域の危険箇所、通学路で危険と感じる場所について、安全確認、安全点検を実施している。

令和7年度は、子ども達と実際に地域を見て、危険箇所や通学路を確認することを通して、子ども達の目線と大人の目線から安全点検を実施するようはたらきかけた。

(2) 子ども達へのはたらきかけ

子ども達へは地域での安全確認についてははたらきかけた。安全について子ども達発信で、保護者にはたらきかけることが大切だと考え、担任を通じて子ども達に保護者へのはたらきかけを依頼した。

あわせて、週末や長期休業前に、交差点横断の仕方や自転車に乗るときの注意、池で遊ばないことなど安全に関わることについて、親子で話をする時間をつくるようはたらきかけた。

(3) 地域へのはたらきかけ

地域の危険箇所や通学路で危険と感じる場所についてすぐに

対応を行うことは難しい場合が多い。危険箇所の改善、解消にむけて働きかけを行うためには、行政へはたらきかけを行う必要がある。そこで、緑陽コミュニティや「日曜日のパパ」などさまざまな団体を通じて働きかけを行うとともに、地域全体で安全で安心な学校づくりを支えていけるようにはたらきかけた。保護者からよせられた地域の危険箇所や通学路で危険と感じる場所については、PTA役員が中心となり、町内会やコミュニティの世話役などと一緒に地域をまわり、確認をすることで改善が実現するようはたらきかけた。

3 実践活動の概要

(1) 令和7年度地域の危険箇所や通学路で危険と感じる場所の調査（危険箇所調査）の実施について

① 危険箇所調査の実施

調査は次のように実施した。

- | | |
|------|--|
| 5月下旬 | ・危険箇所調査についてPTA役員で検討 |
| 6月上旬 | ・全児童へ配付、児童に保護者と一緒に危険箇所を確認するよう依頼 |
| 6月下旬 | ・危険箇所を集約
・PTA役員が危険箇所へ行き、状況を確認
写真をとり、報告書の作成 |
| 7月中旬 | ・町内会、コミュニティへ情報共有
・保護者へ危険箇所報告のお礼と危険箇所の共有、市への報告 |

② 調査の結果の活用

実施した調査により、令和7年度は約30件（同じ場所の報告は1件とした）の危険箇所があげられた。それぞれの場所について、PTA役員が実際にその場所で確認を行い、改善方法を検討した。特に児童が関係する事故があった場所については具体的な改善案がいくつもあげられ、実現可能な再発防止案の検討が行われた。

③ 結果報告ならびに改善の実施

今回の調査によりあげられた場所から、緊急性の高い場所、事故の再発・発生が危惧される場所について報告書を作成した。報告書はコミュニティの月例会で町内会長、自治会長他、緑陽コミュニティ役員に配付し、PTAとして早急な対応について要望、依頼を行った。あわせて、通学路については、第1回通学路安全推進会に報告を行い、路面のカラー塗装や道路周辺の樹木剪定の依頼を行った。特に、樹木剪定や除草で対応ができる見通しが悪い場所については、指定管

理者などと連絡をとり、市からの許可を得て「「日曜日のパパ」」と協力して整備を行った。

(2) 校内安全点検および修繕の協力

P T A 役員会や学校公開日などの機会を通じて、校内の様子を見たり、学年や校務主任からの意見を聞き、修繕に協力できる箇所を確認したりした。学校内の安全な環境づくりにも積極的に関わることで、保護者の視点から子ども達の生活をよりよいものにしようと関わることができた。

(3) 今後の取組

P T A として、さまざまな団体とのつながりを生かし、子ども達が安全に安心して生活できる地域は、誰にとっても住みやすい地域であることを地域全体へ広げていきたい。

防ぐことができない災害や事故などの出来事に対して子ども達にどのようなケアをしていくかを検討することも大切だと考えている。地震避難訓練 津波避難訓練を通して、避難後に子ども達の引き取りをどのように行うか、不審者侵入後に、自分の子をどのようにケアするかという観点に立ち不審者対応訓練に参加することも検討していくたい。



【地域の見守り感謝の会】

4 おわりに

P T A として、子ども達の安心・安全な学校生活を実現するために、さまざまな団体と連携して学校支援を積極的に行うための体制づくりを行った。今回報告した内容は、特に目新しいことでも緑陽小学校のみが取り組んでいることでもなく、どの P T A でも実施されていることだと思う。緑陽小学校でも令和 7 年度、P T A 地区委員のあり方を見直し、役員のみを選出することとなった。P T A 会長として、地区委員は廃止したのではなく、すべての保護者が P T A の委員として子ども達が安心・安全な学校生活をおくるために自分自身の目で見て、子どもと一緒に考え、自分の意見をもって発信できるための体制になったととらえている。今回の危険箇所調査でも例年よりも多くの回答を得ることができた。役として参加しなければならない P T A から、子ども達のために意見をだしたい P T A となるための組織改革、意識改革を一歩すすめられたように感じる。今後も、P T A 活動を持続可能なものとし、学校支援を充実させるために多くの方々との結びつきを大切にし、子ども達のために尽力していきたい。